



通学方法に関する再検討

上牧町学校統合準備委員会（通学部会）



01. 現在の通学状況

通学方法

徒歩のみ（ただし、個別対応あり）

最大通学距離

学校名	距離	地区名
上牧中学校	2.5km	松里園地区
上牧第二中学校	2.3km	下牧3丁目地区

通学方法に関する再検討

上牧町学校統合準備委員会（通学部会）



02. 通学検討状況

コミュニティバス

現在、上牧町内を3台のコミュニティバスが運行しているが、乗車定員3台で31名である。通学部会（第2回）に提示した地区別要対策判定において一定レベル以上に該当する生徒数は約74名であったため、コミュニティバスを通学手段の選択肢とすることは難しいとし、金富・梅が丘地区の生徒のみを対象にする案を提示したが、その後議論が進展せず。

自転車通学

(1) 通学経路調査

事務局職員と管理職教員により、上牧中学校から最も距離のある片岡台1丁目地区（約3.0km）までの経路調査を実施。体力的な負担や所要時間のほか、熱中症など健康リスクを感じたことから、2.5km以上の通学距離となる生徒に対し、何らかの対策を講じる必要があると報告した。

(2) 保護者アンケート調査

自転車通学の導入に関するアンケート調査を実施。85.2%の保護者が自転車通学に賛成と回答した。

通学方法に関する再検討

上牧町学校統合準備委員会（通学部会）



03. 方針検討状況

通学方針（案）

(1) 上牧中学校

統合前から通学距離に変更がないため、従来どおり徒歩通学とする。

(2) 上牧第二中学校

統合により、通学距離・時間的な負担が増すことから、上牧中学校区において最も通学距離の長い松里園地区（約2.5km）よりも通学距離を要する生徒を対象に、自転車通学を希望する場合、保護者の同意のもと、申請制により自転車通学を認める。

承認状況

(1) 学校統合準備委員会

保護者アンケート結果を踏まえた部会案を承認。

(2) 教育委員会

自転車通学のルールを明確にするまで保留。

通学方法に関する再検討

上牧町学校統合準備委員会（通学部会）



04. 自転車通学の課題

教育委員会

(1) 安全上のリスク

町内の主要な道路は交通量が多く、事故に遭遇するリスクがある。
また、歩道等を通行する際に、通行人と接触する危険性があり、加害者となる恐れがある。

(2) 健全育成の観点

体力低下が顕著となっているなか、徒歩で体力をつくることも必要。

保護者

(1) バス通学の選択肢

自転車通学による交通安全上のリスクや天候不良の際の利便性の悪さなどを踏まえ、スクールバスの導入や公共交通バスの利用の容認を求める要望が多数寄せられている。

通学方法に関する再検討

上牧町学校統合準備委員会（通学部会）



05. バス通学の可能性①

公共交通バス

(1) 運賃（片道）

片岡台1丁目・3丁目 ～ 上牧町役場	260円
下牧南口 ～ 上牧町役場	220円

(2) 登校日数（部活動除く）

年間 約180日

(3) 課題

公共交通バスで通学する場合、家庭の負担は年間約90,000円程度となる。

また、要対策判定対象の74人に補助する場合、600～700万円の経常経費が発生する。なお、財源等についてはないものと思われる。

通学方法に関する再検討

上牧町学校統合準備委員会（通学部会）



06. バス通学の可能性②

スクールバス

(1) 導入・維持管理費用（1台当たり） 約600～700万円

車両リース料 約 200～300 万円

運転委託料 約 300 万円

燃料費 約 50 万円

車検等メンテナンス費用 約 30 万円

任意保険料 約 10 万円

(2) 課題

昨今の社会問題となっている運転手不足の問題で、人員の確保が大きな課題である。スクールバスの導入費用の補助については、へき地の場合のみが対象となるため、上牧町では活用できないが、スクールバスを運行する場合、維持運営費用として、普通交付税により約600万円（台・年）算入される。

通学方法に関する再検討

上牧町学校統合準備委員会（通学部会）

